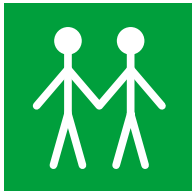


A decorative graphic consisting of numerous thin, curved lines that sweep across the page from left to right, creating a sense of motion and flow.

JR東日本の環境問題に対する取組み

現状と課題 2000



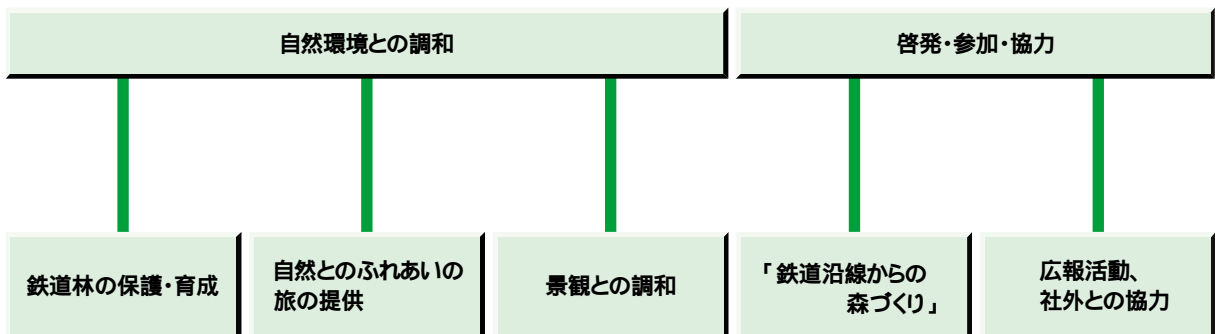
5.環境への社会的取組み

当社の約7,500kmに及ぶ沿線には、鉄道を雪や風などから守るために設けられた鉄道林をはじめとする豊かな自然が数多くあります。こうした、豊かな自然を守り育てていくことも当社にとって重要な課題です。また、グループ会社及び社員全員が環境問題に正しい認識を持ち、一日約1,600万人という当社をご利用になるお客様に環境問題の大切さを訴えていくことも企業の環境への取組みの大きな要素です。JR東日本では、さまざまな機会を捉え、環境を大切にすることの輪を広げています。

目標と進捗状況

項目	目標	1999年度実績
「鉄道沿線からの森づくり」	毎年3万本	12ヶ所 2万本 参加者3千人

JR東日本の環境への社会的取組み



自然環境との調和

鉄道林の再発見

森林の機能はさまざまなものがあり、日本の鉄道はその黎明期からさまざまな自然の脅威を森林により防いできました。およそ100年前、1893年、東北本線の水沢～青森間で地吹雪から鉄道を守るため、鉄道林が設けられました。以後、吹雪防止や土砂崩れ防止などの目的のため、各地で鉄道林が設置されました。現在でも当社は約4,400ヘクタール、立木数にして約600万本の鉄道林を所有しています。こうした鉄道林は豊かな自然を育てており、鉄道林を守り育てていくことも当社の使命と考えています。

自然環境と旅行

旅行を通じて素晴らしい自然に出会うことは、環境の大切さを理解するまたとない機会です。当社は、自然との関わりをテーマにさまざまな旅を提供しています。JR東日本が提案する「あたらしい旅」のコンセプトにも「地域との交流」を掲げ、当社と地域の皆様と共同で滞在型の宿泊施設を整備しています。地域の自然、人、文化、資源を極力活かすことで、自然保護と地域の活性化の両立が可能と考えています。これからも自然の魅力と保全の大切さを伝えることができる旅づくりを心がけていきます。

景観との調和

鉄道の建設や大規模改良などの開発事業を進めていくにあたっては、景観との調和にも配慮しています。構造物の安全性、耐久性と環境との調和の調査、検討などさまざまな取組みを進めています。1999年には新宿本社ビル及び新宿サザンテラスを含む新宿駅南口周辺が、「都市景観大賞」と「日本建築業協会特別賞」を受賞しました。



鉄道林

自然とのふれあいの旅実施例

あだたら浪漫	168名
野山を歩こう	10,847名
菜の花紀行	140名
ほたるに会える旅	416名
白神山地	237名
北海道自然の村	111名



景観調和に配慮した新宿駅南口周辺(中央がJR本社ビル)

啓発・参加・協力

「鉄道沿線からの森づくり」

JR東日本では、環境の大切さをできるだけたくさんの人に知っていただくために、さまざまな活動を展開しています。その中でも、「鉄道沿線からの森づくり」と名付け、1992年以降各地のJR東日本エリアの鉄道沿線に、毎年3万本を目標に植樹活動を継続的に実施しています。これは、JR東日本グループ社員のボランティア活動によるもので、地域の皆様にも参加していただき、鉄道沿線に緑を増やす活動を行っています。また、JR東日本グループ社員からも募金を集め、費用の一部に充てています。

広報活動・社外との協力

1999年12月から2000年1月にかけて、お客様に環境の大切さを訴えるため、エコロジーキャンペーンを展開しました。省エネ型車両209系が配置されている京浜東北線で、1編成の全車両を「エコトレイン」として「ぼくたちの地球を守ろう 作文・ポスターコンクール」(地球子どもクラブ主催)の入選・応募作品とJR東日本からの環境の大切さを訴えるメッセージを掲出しました。また、1編成の先頭・最後尾の車体全面にラッピングを行い、環境の大切さを訴えるイメージをデザインしました。

この他、JR東日本の環境問題に対する取組みを正しく理解していただくため、また、社会全体の環境意識の向上のため、さまざまな広報活動を展開しています。



「鉄道沿線からの森づくり」



1999年12月から2000年1月にかけて運行したエコトレイン



000913

この報告書は古紙配合率100%の再生紙を使用し、アロマフリータイプの大豆油インクで印刷されています。